

平成 23 年度における食品安全委員会の リスクコミュニケーションの実施状況について

- 1 評価案件に関する意見交換会（食品安全委員会主催）
- 2 食品中の放射性物質対策に関する説明会（厚生労働省との共催）
- 3 食品のリスクを考えるフォーラム（地方公共団体との共催）
- 4 食品のリスクを考えるワークショップ（地方公共団体との共催）
- 5 地域の消費者団体等と連携した意見交換会（地方公共団体、消費者団体等との共催）
- 6 ジュニア食品安全ゼミナール（地方公共団体との共催）
- 7 地方公共団体等が実施する意見交換会等への講師派遣
- 8 ホームページによる情報提供
- 9 メールマガジンによる情報提供
- 10 食の安全ダイアルの取組
- 11 リスクコミュニケーター育成講座受講者との連絡専用メールボックス

食品安全委員会主催による意見交換会の実施概要 (評価案件に関するもの)

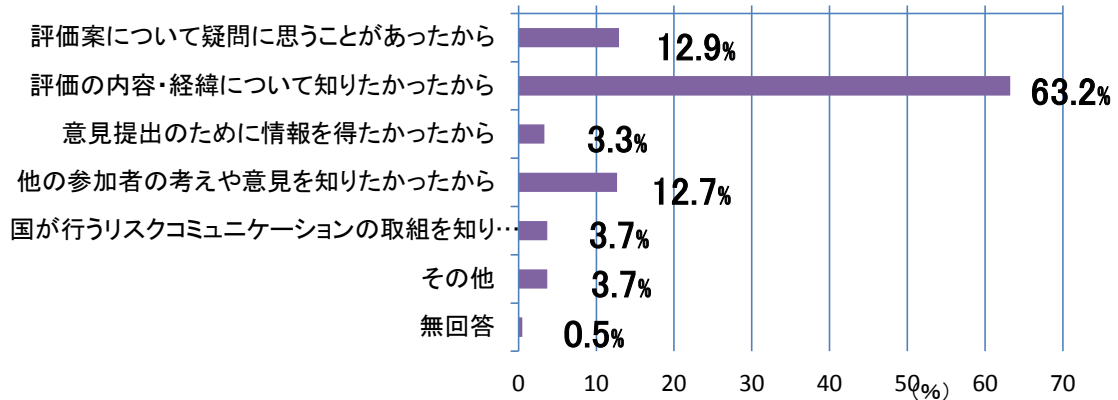
食品安全委員会では、食品健康影響評価のうち、国民の関心が高い審議結果案について、意見・情報の募集(パブリックコメント)期間中に講演方式による意見交換会を開催している。

また、リステリア・モノサイトゲネスに関する食品健康影響評価の開始に伴い、その情報収集の一環として、米国、ドイツ及び豪州から専門家を招へいし、一般消費者や食品関連事業者等を対象とした諸外国におけるリステリア症への対応等についてのセミナーを3月に開催した。なお、本意見交換会で使用した資料や意見交換等の内容は順次ホームページに掲載している。

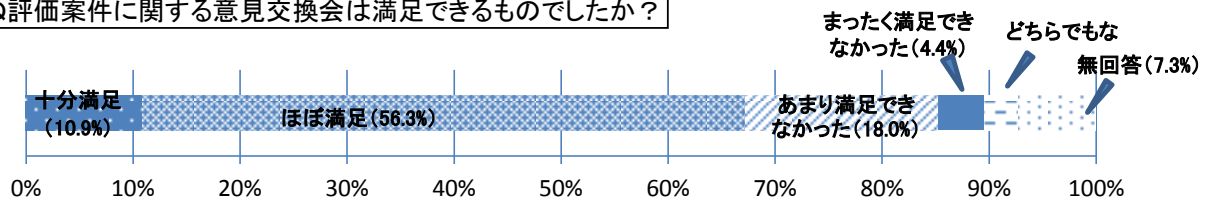
日時	平成23年8月2日 12:30-15:00	平成23年8月12日 10:00-12:00	平成23年11月1日 10:00-12:00	平成24年3月28日 9:30-16:00
テーマ	放射性物質に係る 食品健康影響評価	生食用食肉(牛肉)に 係る 食品健康影響評価	トランス脂肪酸に係る 食品健康影響評価	リステリア症 ー北米、欧州、豪州の 経験に学ぶー
開催場所	東京 (食品安全委員会 会議室)			
講演者	食品安全委員会 放射性物質の食品健康 影響評価に関するワー キンググループ 座長 山添 康	食品安全委員会 委員長代理 熊谷 進	食品安全委員会 新開発食品専門調査 会 専門委員 山添 康	米国疾病管理 予防センター バーバラ・メオン医師 ほか
進め方	食品安全委員会事務局より評価の経緯、意見交換の進め方について説明後、講演者が評価案について説明を行った。 意見交換は、それぞれ50分程度の時間をとり、参加者の発言に講演者が応答した。また事務局からは、適宜、質疑に関係した評価書案の記載箇所を紹介するなどの情報提供を行った。			バーバラ・メオン医師ほか3名の海外の専門家によるリステリア症に関する講演後、豊福専門員をコーディネーターに迎え、参加者を交えた40分程度の意見交換を行った。
参加者から寄せられた質問・意見の例	・なぜ子供と大人が同じ値なのか。年齢で区切って細かく基準を決めるべきではないか。 ・ICRPへの批判的な論文やチェルノブイリでの研究をどう採用しているのか。 ・直線仮説をなぜ採用しないのか。 ・評価に関わった専門家はどの選んだのか ・一般的には閾値に安全係数を掛けてADIとするはずだが、今回の100mSvに適用しないのはなぜか。	・サンプリングの25検体について、ロットの考え方を教えてほしい。 ・厚生労働省が提出したデータの実験条件は、非現実的なものではないか。 ・加工時の達成目標値に関して、適正な衛生管理下でと言っているが、どの程度の衛生管理を想定しているのか。 ・事業者から見て、基準案に実効性がないと考えるが、それについて食品安全委員会は、なんらかの判断はしないのか。	・食品中トランス脂肪酸の減少に伴って増加した飽和脂肪酸による健康影響はどうか。 ・家畜由来のトランス脂肪酸は、健康影響に問題がないのはなぜか。 ・トランス脂肪酸の摂取量増加と心疾患について相関があるという欧米の疫学データの調査対象は40-50代が多いが、これをそのまま若年層に当てはめて健康影響を考えていいのか。 ・ホームページのトランス脂肪酸に係るQ&Aをよりわかりやすく記載して欲しい。	・高齢者で発症例が著しく増加してきているというのは、疫学が不明ということではあるが、何が作用していると考えられるか ・リステリアについては、日本では高濃度に汚染された食品はないというが、一方では、食中毒と認識されず、実際は欧米並みの発症率との情報もある。どの程度、防除の必要性があるのか具体的な情報が欲しい。 ・リステリアの試験法(検出の有無・個数の判定方法)についても
参加者	87名(食品関連事業者22名、行政6名、消費者団体5名、消費者4名、食品関連研究者2名、生産者1名、不明・その他47名)	43名(食品関連事業者16名、消費者団体6名、行政4名、生産者3名、食品関連研究者3名、消費者1名、不明・その他10名)	75名(食品関連事業者49名、食品関連研究者6名、消費者団体5名、行政2名、生産者1名、不明・その他12名)	78名(食品関連事業者43名、行政12名、食品関連研究者8名、消費者団体6名、消費者2名、マスコミ1名、不明・その他6名)

評価案件に関する意見交換会の参加者に対するアンケート結果

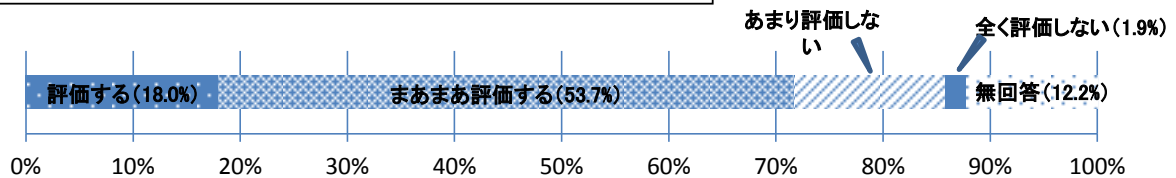
Q評価案件に関する意見交換会に参加した目的は？



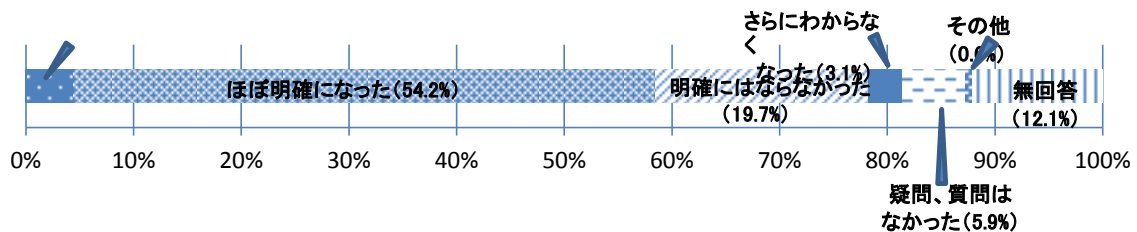
Q評価案件に関する意見交換会は満足できるものでしたか？



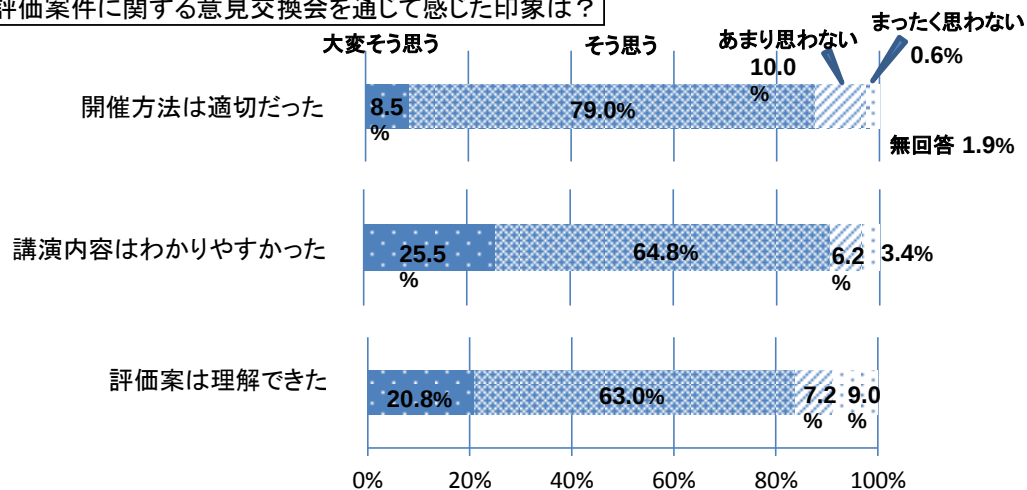
Q評価案件に関する意見交換会についてどうおもわれましたか？



Q参加される前の疑問、質問は明確になりましたか？

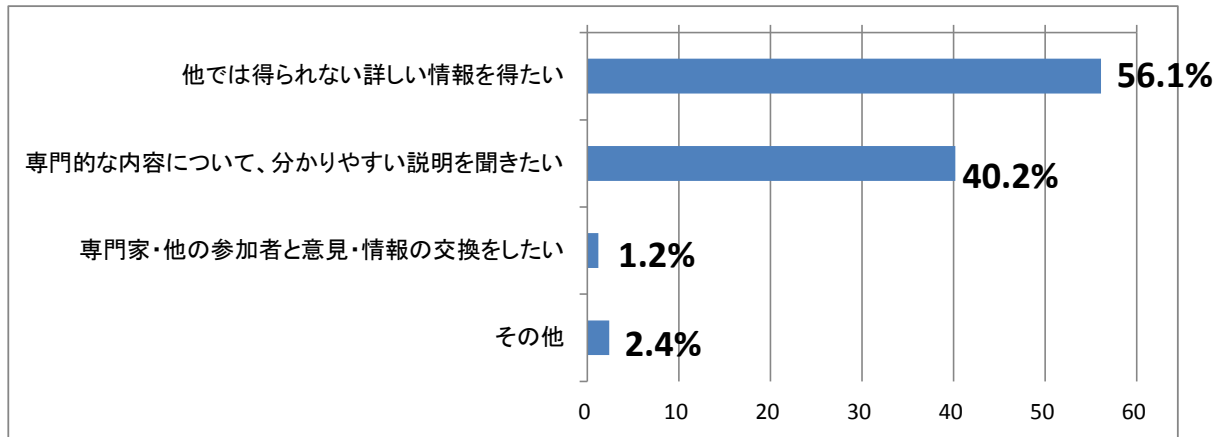


Q評価案件に関する意見交換会を通じて感じた印象は？

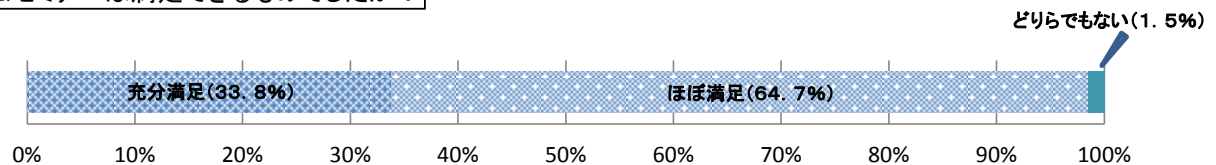


リステリアセミナーの参加者に対するアンケート結果

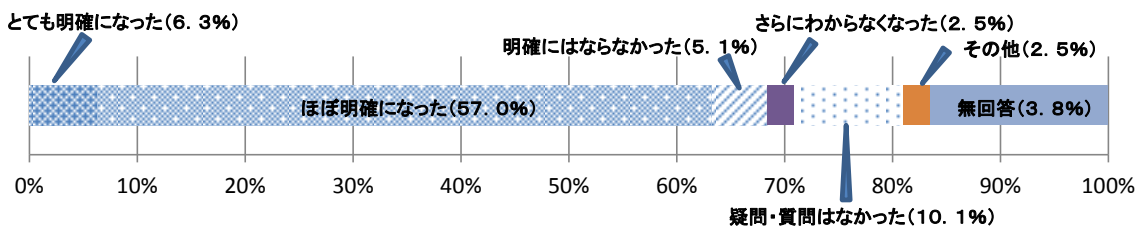
Qセミナーに参加した目的は？



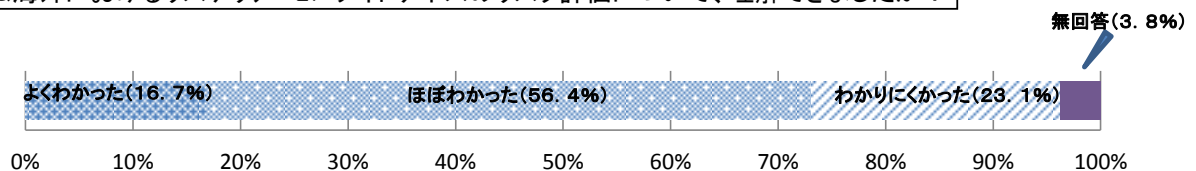
Qセミナーは満足できるものでしたか？



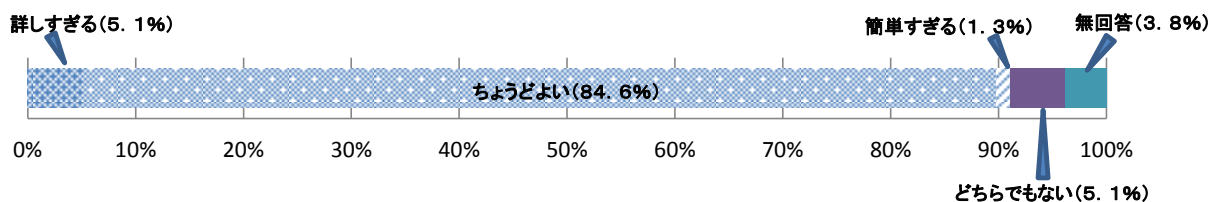
Qセミナーに参加する前の疑問、質問は明確になりましたか？



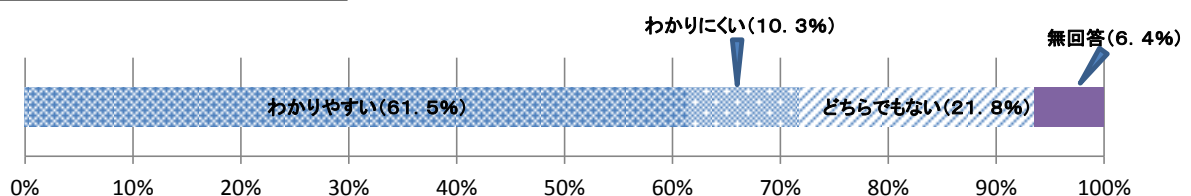
Q海外におけるリステリア・モノサイトゲネスのリスク評価について、理解できましたか？



Q説明内容はいかがでしたか？



Q説明資料はいかがでしたか？



食品中の放射性物質対策に関する説明会（厚生労働省との共催）の実施概要

食品中の放射性物質については、平成23年10月27日に食品安全委員会が取りまとめた食品健康影響評価をふまえ、厚生労働省において新たな基準値が設定され、平成24年4月1日から施行されている。

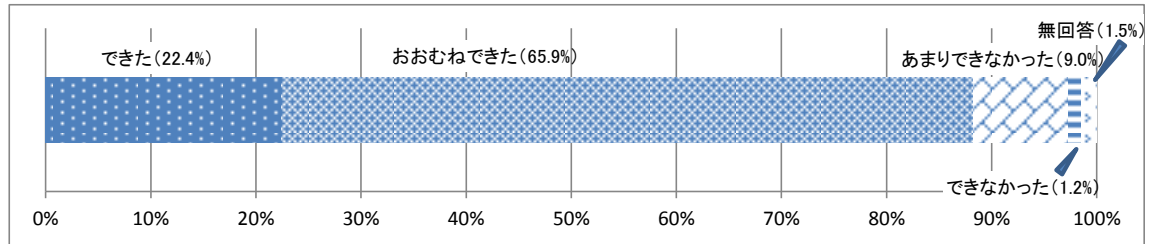
この新たな基準値や食品健康影響評価等に対する理解を深めるため、食品安全委員会と厚生労働省は共催で、各地で「食品中の放射性物質対策に関する説明会」を開催した。

平成23年度は、各地で7回開催し、1,182名が参加。なお、説明会で使用した資料等は順次ホームページに掲載している。

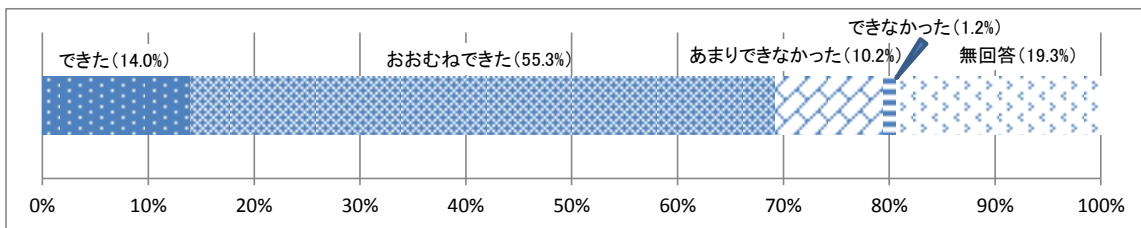
日時	平成24年1月16日	平成24年1月24日	平成24年1月31日	平成24年2月6日
開催県	東京都	福島県	福岡県	宮城県
参加者から寄せられた質問・意見の例	・生涯の累積で100mSvというのと年間1mSvとの関係は。 ・基準値をできるだけ低くし、経過措置もできるだけ短くしてほしい。 ・外部被ばくの扱いはどうなるのか。 ・セシウム以外の放射性核種を考慮しているのか。	・自然放射線による被ばくと人口放射線による被ばくに違いはあるか。 ・主食と嗜好品を同じ基準にするのではなく、実態を精査して基準を定められなかったのか。 ・100Bq/kgの基準は消費者に受け入れられるか。	・外部被ばくの扱いはどうなるのか。 ・パンダジェフスキー氏のレポートを検討したのか。 ・給食の基準と大人の基準が同じなのは疑問。 ・自然放射線による被ばくと人工放射線による被ばくは違うと思う。 ・がん以外の影響も考慮すべき。	・外部被ばく、吸入被ばくの扱いはどうなるのか。 ・もっと緩い基準で検査すれば、全量検査ができるのではないか。 ・コメの作付け制限をどうするのか。 ・ストロンチウム単体を規制しないのか。 ・自家消費野菜の検査はどうするのか。
参加者	206名	136名	138名	223名
日時	平成24年2月10日	平成24年2月20日	平成24年2月28日	
開催県	岩手県	愛知県	大阪府	
参加者から寄せられた質問・意見の例	・放射性カリウムと放射性セシウムの体への影響はどう違うか。 ・放射性物質の測定方法を統一してほしい。 ・子どもの内部被ばくが心配。 ・賞味期限をもとにした経過措置は混乱を招くのではないか。 ・今後基準値をさらに引き下げる予定はあるか。	・生涯の累積で100mSvというのと年間1mSvとの関係は。 ・対象となる放射性核種が5種類しかないのはなぜか。 ・自然放射線が多いのはどういう地質か。 ・実際に売っているものの放射性物質が分かるようにしてほしい。 ・暫定規制値と新基準値との関係は。	・基本的な情報をもっと発信してほしい。 ・放射性ヨウ素の基準値も設定してほしい。 ・全品検査をし、結果を表示してほしい。 ・海の魚の検査状況を教えてください。	
参加者	155名	145名	179名	

参加者に対するアンケート結果

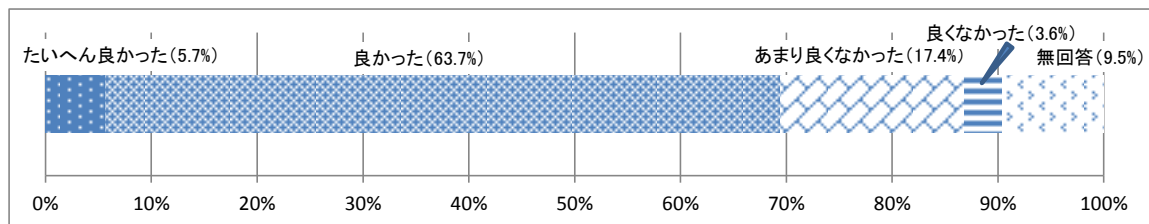
Q. 説明について、理解することができましたか



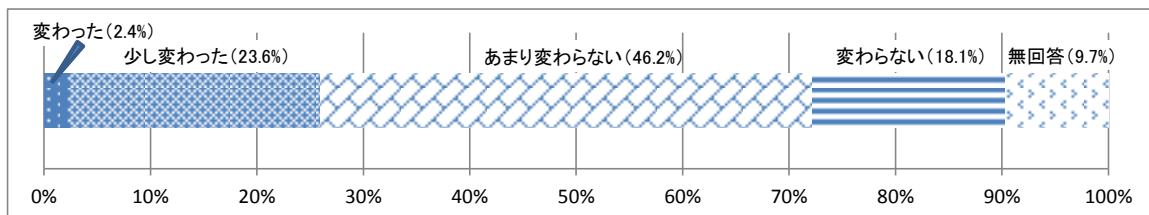
Q. 意見交換の内容について、理解することができましたか



Q. 全体の評価はいかがでしたか



Q. 説明会に参加する前と後ではご自身の考え方は変わりましたか。



食品のリスクを考えるフォーラム(地方公共団体との共催)の実施概要

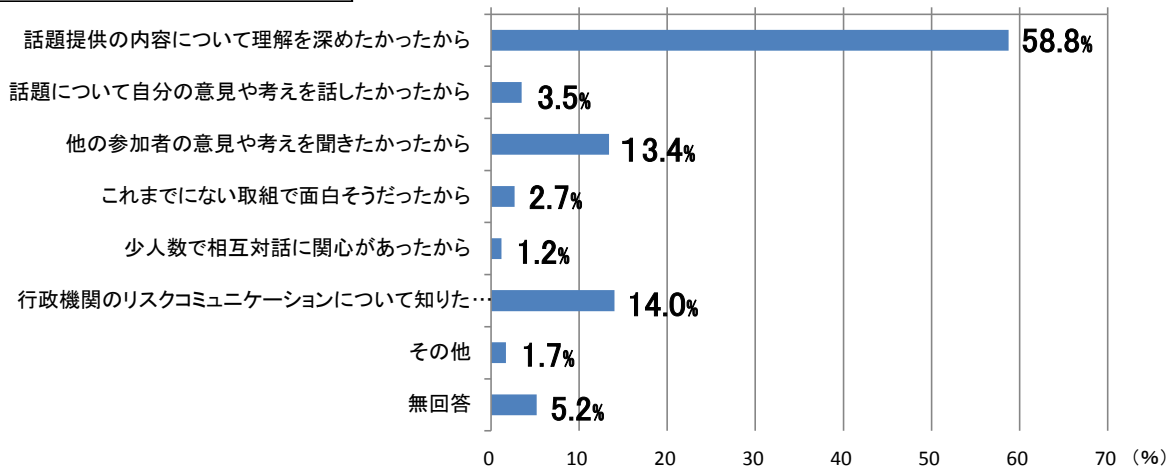
食品安全委員会では、地方公共団体との共催により各地でフォーラム形式の意見交換会を開催している。フォーラム形式の意見交換会は、サイエンスカフェの要素を取り入れて、参加者が質問しやすい雰囲気の中で進めるもので、食品安全委員会事務局職員による食品健康影響評価や食品のリスクに対する科学的な考え方に関する情報提供に加えて、地方公共団体職員からの地域における食品安全の取組をお知らせした後、参加者から出された質問カードを紹介しながら意見交換を行っている。平成23年度は、各地で14回開催し、参加者は計483名。なお、食品のリスクを考えるフォーラムで使用した資料や意見交換等の内容は順次ホームページに掲載している。

日時	平成23年8月25日	平成23年8月26日	平成23年8月30日	平成23年10月6日
共催自治体	岡山県(岡山市開催)	岡山県(津山市開催)	下関市	佐賀県
テーマ	食品と放射性物質	食品と放射性物質	生食用食肉のリスク	私たちの健康と食品添加物の安全性
参加者から寄せられた質問・意見の例	・一時的な被ばくと長期的な被ばくでは、違うと思いますがどうやって評価したのですか。 ・肉・野菜など単体では規制値内であっても加工品となった時、それに規制値は適応されるのか。 ・基準値の根拠の年間5ミリシーベルトと評価結果の生涯100ミリシーベルトの関係はどう考えたらよいのか。 ・インドなどの高線量地域で発がんリスクが増加しなかった理由として考えられることは何か。	・安心なレベルであっても長時間放射性物質が体内に蓄積するとどうなるのか。 ・マスコミ等の報道ではヨウ素やセシウムについては取り上げられているが、ストロンチウムについては今回の原発事故における影響はないのか。 ・α線を出す放射性物質とβ線を出す放射性物質による健康影響は同じように考えられるのか。	・食中毒菌は動物の腸内にいるものが、牛の解体時に全く腸をこわさなければ汚染が生じないのか。 ・カンピロバクターのリスク評価結果の中で、生食する人の感染確率は家庭よりも飲食店で高いのに、生食しない人の感染確率は飲食店の方が低くなるのはなぜか。 ・消費者は販売されているものは大丈夫だと、食品リスクを意識していない現状があるので、食品リスクについて周知が必要	・ADIなど日本の安全基準は、ヨーロッパや米国の基準と比較検討されて策定されているのか、また、基準には年齢による差はないのか。 ・人間は個人によって代謝が違うので同じ基準で考えてよいのか。 ・食品添加物と同成分の農業登録がある物質のADI設定は食品添加物や農業の両方を考慮して決められているのか。 ・クチナシ色素などの天然添加物の評価はどうなっているのか。
参加者	33名(消費者7名、食品関連事業者6名、消費者団体2名、行政2名、不明・その他14名)	19名(食品関連事業者6名、消費者3名、行政3名、生産者1名、不明・その他6名)	28名(食品関連事業者10名、消費者8名、行政4名、食品関連研究者2名、消費者団体1名、不明・その他3名)	36名(食品関連事業者17名、行政7名、消費者団体5名、消費者4名、食品関連研究者1名、その他2名)
日時	平成23年10月20日	平成23年11月1日	平成23年11月11日	平成23年12月2日
共催自治体	世田谷区	山形県	松山市	兵庫県
テーマ	食品と放射性物質	食品と放射性物質	食品と放射性物質	食品と放射性物質
参加者から寄せられた質問・意見の例	・広島、長崎のデータだけ評価に用いられ、チェルノブイリのデータがあまり使用されていないが、チェルノブイリの教訓を生かすべき。 ・暫定規制値は、社会的な影響や国内の需給を考慮して設定されたものなのか。 ・放射性物質による発がん以外の影響について十分な評価が行えていないのは納得できない。 ・人工放射線と自然放射線の内部被ばくを同じように考えるのはおかしい。	・100mSv以下の健康影響は、データがないため言及できないと聞いて不安になったが、体に取り込まれた放射性セシウムの半分が約70日で体内から出ていくというのを聞いて少し安心した。国からは安心できるような情報をもっと提供して欲しい。 ・放射性物質に関する施策について、省庁がばらばらに取組んでいて非常にわかりにくい。総合的に取り組むような体制を今後とる考えはないのか。	・広島・長崎のデータを採用するにあたって、外部被ばくの影響と内部被ばくの影響を科学的に分けることができたのか。 ・放射性セシウムによる低線量被ばくで膀胱がんのリスクが高まるという動物実験のデータがあるが、なぜ評価に採用しなかったのか。 ・暫定規制値を下回っていても放射性物質を含む食品は極力子どもには食べさせたくないの、避けるためにはどうすればよいのか。	・放射能のガンへの影響の話が出ていましたが、遺伝的な影響はないのでしょうか。 ・健康影響評価がわかりにくい。小児への影響はリスクの増加しかわからないのに言及したので、逆に不安を招くのではないのか。 ・基準や人の影響についての情報が、消費者には十分に伝わっていない点が見かけられる。リスクコミの回数や情報発信をもっと強めてほしい。
参加者	50名(消費者17名、食品関連事業者13名、消費者団体1名、生産者1名、食品関連研究者1名、不明・その他17名)	31名(消費者団体11名、食品関連事業者7名、行政7名、その他6名)	35名(消費者15名、行政11名、食品関連事業者2名、消費者団体1名、食品関連研究者1名、不明・その他5名)	48名(食品関連事業者19名、消費者団体8名、行政8名、生産者2名、消費者1名、マスコミ1名、食品関連研究者1名、不明・その他8名)

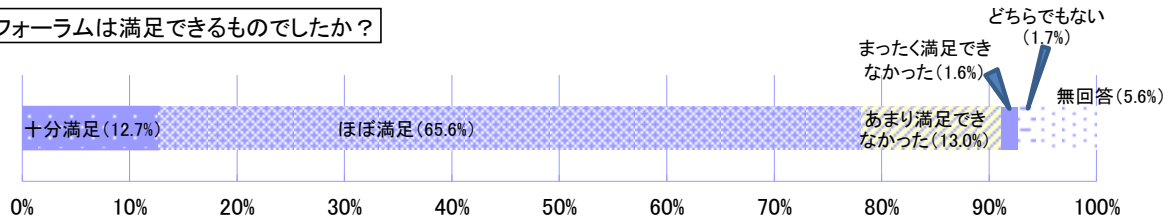
日時	平成23年12月9日	平成23年12月21日	平成24年1月17日	平成24年1月27日
共催自治体	佐世保市	奈良県	豊田市	広島市
テーマ	生食用食肉のリスク	食品添加物	生食用食肉のリスク	生食用食肉のリスク
参加者から寄せられた質問・意見の例	・なぜリスクがあるのに肉の生食を禁止しないのか。 ・今まで一般市民への啓発活動を今までどのような形で行ってきたのか。 ・同じものを食べても食中毒を起こす人と起こさない人がいるのはなぜか。 ・飲食チェーン店での腸管出血性大腸菌食中毒事件が発生する前に市内の飲食店で生食用食肉(牛肉)の提供をする店舗はどのくらいあったのか。	・「ばく露評価」について詳しく知りたい。 ・パブリックコメントにはどんな意見が寄せられているのか。 ・ADIを決める際、胎児への影響はどのように評価しているのか。 ・食品安全委員会でのリスク評価するにあたって、どのような委員が選ばれるのか。 ・遺伝子組み換え微生物を用いてつくられた食品添加物が最近話題になっているが、最新の情報を教えてほしい。	・病原性大腸菌と腸管出血性大腸菌の違いは何か。 ・牛レバーの中にカンピロバクター、O157がいたことが判明したが、筋肉中はどうなのか。 ・どんな食品にもゼロリスクはないのだから、食肉の生食を規制する必要はなかったのでは。 ・生食用食肉の製造基準は、馬肉の製造に用いられている条件を当てはめて製造すれば問題ないのではないか。	・鶏肉の生食の有無によるカンピロバクターの感染確率について男女別や年齢別の詳しいデータはあるのか。 ・腸内細菌科菌群とは何か。 ・生食用食肉の新基準では、肉の加工工程で熱湯につけるとい部分があるが、熱湯につける時間や肉をつける容器の大きさ(深さ)に基準はあるのか。 ・生食用食肉のリスクについて、内閣府は文部科学省を通じて、小中学校等への啓発などは考えていないのか。
参加者	28名(消費者8名、消費者団体6名、行政6名、食品関連事業者5名、不明・その他3名)	22名(行政8名、食品関連研究者4名、消費者3名、食品関連事業者3名、消費者団体3名、不明1名)	47名(食品関連事業者13名、行政10名、消費者6名、食品関連研究者2名、消費者団体1名、生産者1名、不明・その他14名)	24名(食品関連事業者8名、消費者7名、食品関連研究者2名、消費者団体1名、行政1名、その他5名)
日時	平成24年1月31日	平成24年2月10日		
共催自治体	大田区	熊本県		
テーマ	食品と放射性物質	食品添加物		
参加者から寄せられた質問・意見の例	・「生涯100mSv」とは食品のみで考えられたようであるが、なぜ食品だけで100としたのか。 ・食品のカリウム40について、原発事故の前後で変化はあるのか。 ・放射性物質の基準は、ADIから設定するのとは異なる考えなのか。 ・ストロンチウム・プルトニウム等については独自の規制値を作らないのはなぜか。	・既存添加物には評価されていないものもあるとのことだが、評価されるまで使用できないということにはならないのか。 ・食品には複合して添加物が入っているが、その点についてはいかがか。 ・ソルビン酸に代わる添加物や合成の保存料を使わなくてもいい技術などを国で研究しているのか。 ・TPPIに加盟するとしたとして、いろんな国際基準になると思うが、食品添加物の基準値はどのようなになるのか。		
参加者	40名(食品関連事業者15名、消費者7名、行政6名、消費者団体3名、食品関連研究者2名、生産者1名、マスコミ1名、不明・その他5名)	42名(消費者10名、食品関連事業者7名、行政6名、消費者団体3名、生産者2名、不明・その他14名)		

フォーラム参加者に対するアンケート結果

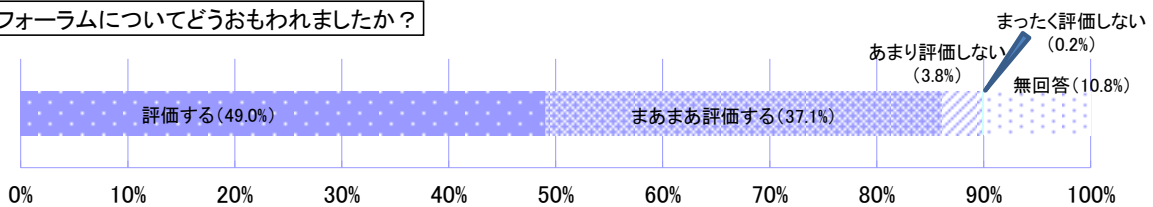
Qフォーラムに参加した目的は？



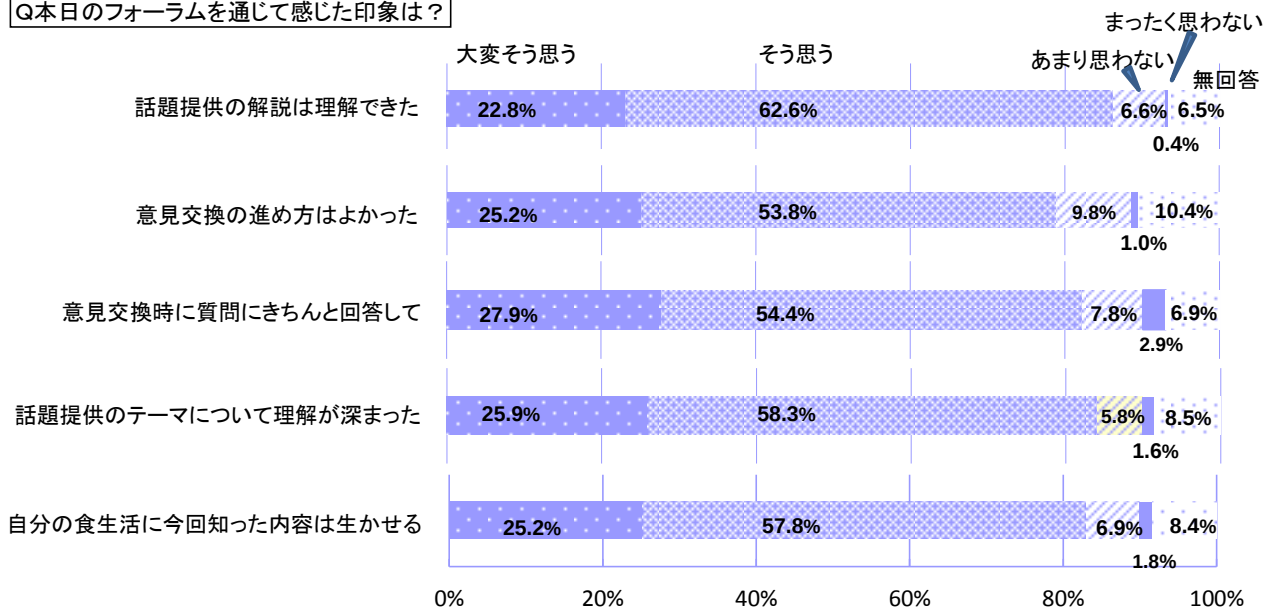
Q本日のフォーラムは満足できるものでしたか？



Q本日のフォーラムについてどうおもわれましたか？



Q本日のフォーラムを通じて感じた印象は？



食品のリスクを考えるワークショップ(地方公共団体との共催)の実施概要

食品安全委員会では、食品健康影響評価の考え方、進め方を中心に、地方公共団体との共催により、各地でワークショップによる意見交換会を開催している。

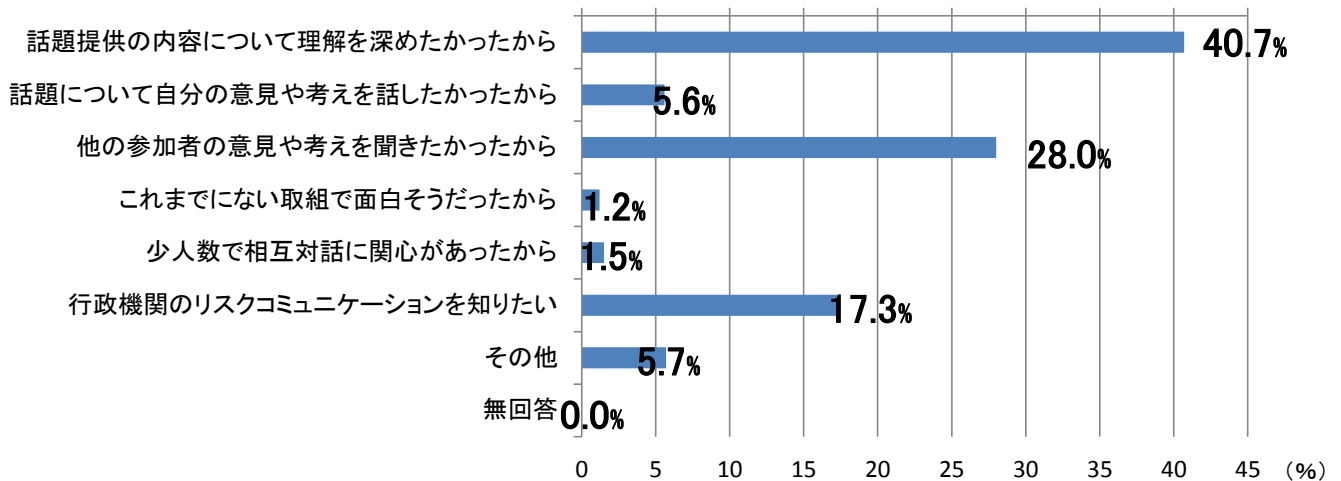
ワークショップは、食品健康影響評価の考え方等について情報提供した後、参加者が5～6名程度のグループに分かれて話し合い、そこで得た意見や疑問について食品安全委員会事務局職員、地方自治体職員と話し合う方式で行っている。

平成23年度は、各地で6回開催し、参加者は計182名。なお、ワークショップで使用した資料や意見交換等の内容は順次ホームページに掲載している。

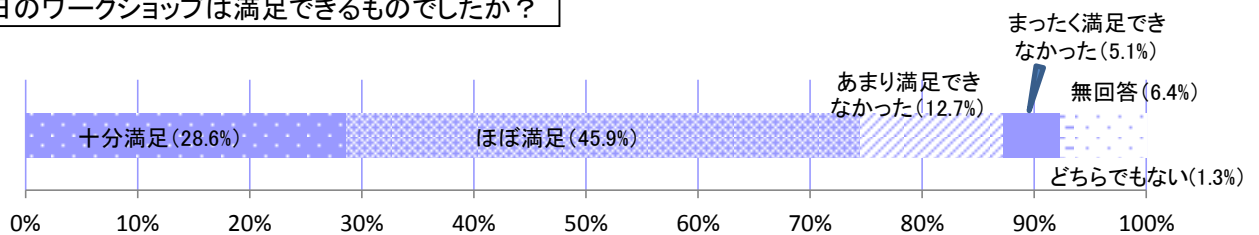
開催日	平成23年9月16日	平成22年10月18日	平成23年10月25日
共催自治体	長崎県	徳島県	鹿児島県
テーマ	知っとる？食品添加物	食品と放射性物質について	食の安心は食品の安全とリスクを知ることから
進め方	食品安全委員会事務局より、「食品添加物のリスク評価」の内容について情報提供後、参加者がグループに分かれ、食品添加物に対する意見や疑問点、上手につきあう方法等についてグループ毎に話し合い、整理した。次に、整理された内容をグループ毎に発表し、コメントーターを交えて意見交換を行った。	食品安全委員会事務局より放射性物質の基礎知識及び食品健康影響評価について情報提供後、グループワークで食品の放射性物質に関する意見や疑問などをグループ毎に話し合い、整理した。次に、整理された内容をグループ毎に発表し、コメントーターを交えて意見交換を行った。	食品安全委員会事務局より放射性物質の基礎知識及び食品健康影響評価について情報提供後、グループワークで食品の放射性物質に関する意見や疑問などをグループ毎に話し合い、整理した。次に、整理された内容をグループ毎に発表し、コメントーターを交えて意見交換を行った。
参加者	34名(行政10名、消費者9名、消費者団体4名、食品関連事業者3名、不明・その他8名)	31名(消費者団体9名、行政6名、消費者5名、食品関連研究者3名、食品関連事業者1名、不明・その他7名)	29名(食品関連事業者8名、消費者7名、消費者団体2名、行政2名、不明・その他10名)
日時	平成23年11月11日	平成23年11月18日	平成24年2月17日
共催自治体	京都府	岡山市	神戸市
テーマ	お肉の生食と食中毒	食肉の生食のリスクを知ろう	知ってる？放射性物質
進め方	食品安全委員会事務局より生食用食肉(牛肉)、鶏肉のカンピロバクターの食品健康影響評価について情報提供後、参加者が小グループに分かれ、食肉の生食による食中毒のリスクを減らすためどんなことをすることが大切かをグループごとに話し合い、出された意見を整理した。次に、整理された内容を発表し、コメントーターを交えて参加者全体で意見交換を行った。	食品安全委員会事務局より生食用食肉(牛肉)、鶏肉のカンピロバクターの食品健康影響評価について情報提供後、参加者が小グループに分かれ、食肉の生食による食中毒のリスクを減らすためどんなことをすることが大切かをグループごとに話し合い、出された意見を整理した。次に、整理された内容を発表し、コメントーターを交えて参加者全体で意見交換を行った。	食品安全委員会事務局より放射性物質の評価を理解するための基礎知識と評価の概要について、神戸市より食品の放射性物質の基準値と検査について情報提供後、参加者が小グループに分かれ、食品における放射性物質にどのように対応していくのかをグループごとに話し合い、出された意見を整理した。次に、整理された内容を発表し、コメントーターを交えて参加者全体で意見交換を行った。
参加者	25名(消費者6名、消費者団体3名、食品関連研究者3名、食品関連事業者2名、生産者1名、不明・その他10名)	22名(消費者10名、行政9名、食品関連事業者1名、食品関連研究者1名、不明・その他1名)	41名(食品関連事業者12名、消費者9名、行政4名、不明・その他16名)

ワークショップ参加者に対するアンケート結果

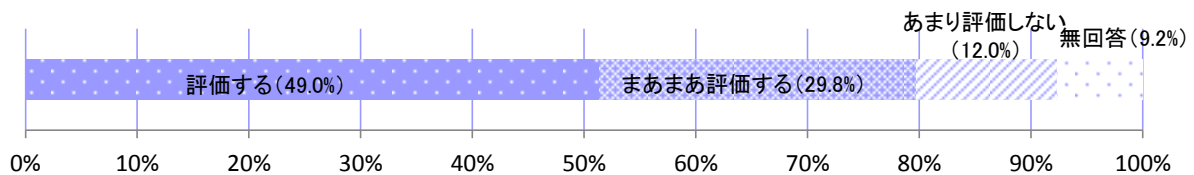
Qワークショップに参加した目的は？



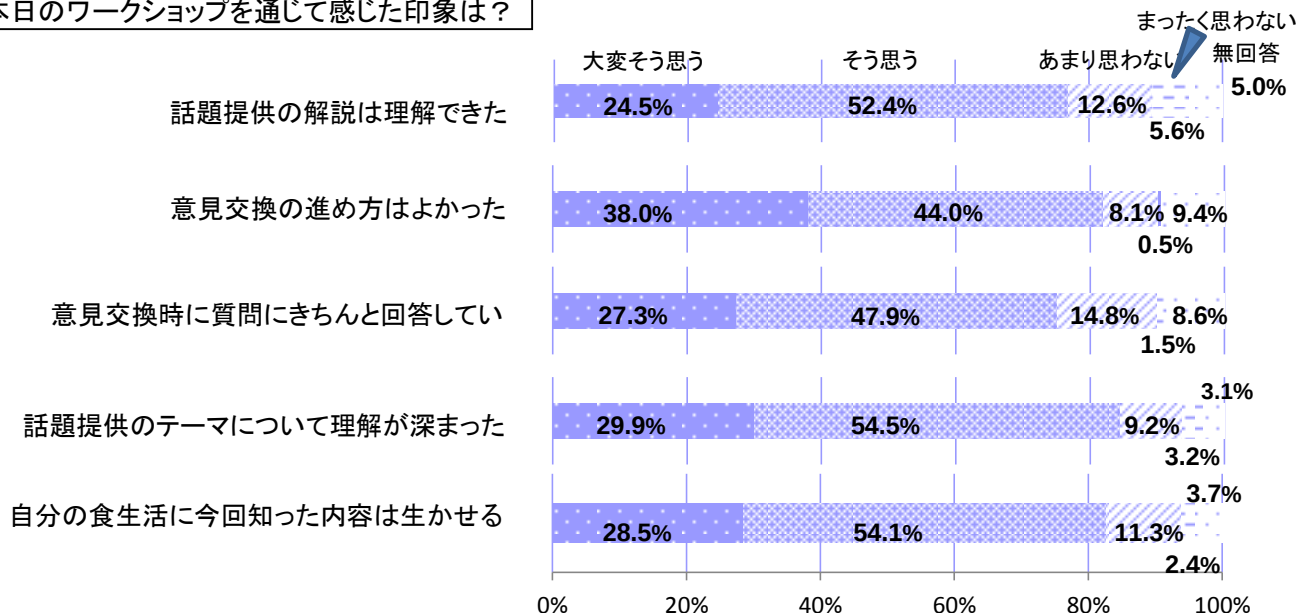
Q本日のワークショップは満足できるものでしたか？



Q本日のワークショップについてどうおもわれましたか？



Q本日のワークショップを通じて感じた印象は？



地域の消費者団体等と連携した意見交換会（地方公共団体、消費者団体等との共催）の実施概要

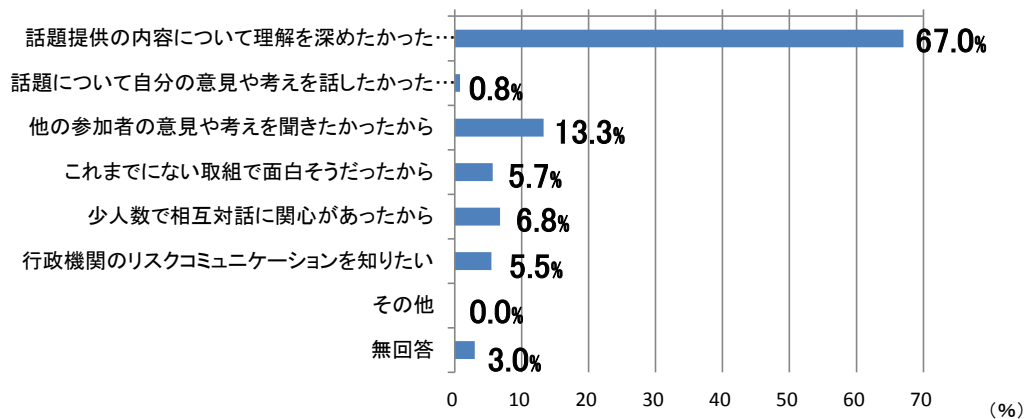
食品安全委員会では、地域の消費者団体等と連携した意見交換会を地方公共団体と開催しています。これは、地域の消費者団体の要望に応じて、テーマや開催形式を決定し、消費者のニーズに即した意見交換会をするもので、食品安全委員会事務局職員より食品健康影響評価の考え方や食品のリスクに関する科学的な知見に関する情報提供後にサイエンスカフェ、フォーラム、ワークショップといった多様な形式による意見交換を行っている。

平成23年度は、各地で4回開催し、参加者は計287名。なお、本意見交換会で使用した資料や意見交換等の内容は順次ホームページに掲載している。

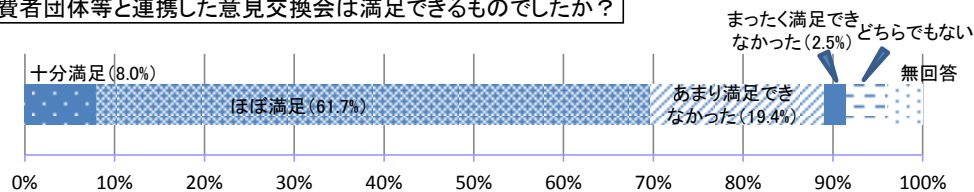
日時	平成23年9月27日	平成23年10月19日	平成23年11月29日	平成24年1月19日
共催自治体等	岡崎市 岡崎市食育推進ボランティア	滋賀県 滋賀県生活協同組合連合会	山口県 山口県地域消費者団体 連絡協議会	群馬県 群馬県生活協同組合連合会
テーマ	食品と放射性物質	食品と放射性物質	食品中の放射性物質による 健康影響	食品と放射性物質
開催形式	サイエンスカフェ	フォーラム	ワークショップ	フォーラム
進め方	食品安全委員会事務局職員より放射性物質の食品健康影響評価に関する情報提供後、参加者から寄せられた質問カードを紹介しながら意見交換を実施した。	食品安全委員会事務局職員より放射性物質の食品健康影響評価に関して、滋賀県職員から滋賀県における放射性物への対応について情報提供後、滋賀県生活協同組合連合会理事、滋賀県立大学大学教授、県職員をアドバイザーとして意見交換を実施した。	食品安全委員会事務局より放射性物質の基礎知識及び食品健康影響評価について情報提供後、グループワークで食品の放射性物質に関する意見や疑問などをグループ毎に話し合い、整理した。次に、整理された内容をグループ毎に発表し、コメントーターを交えて意見交換を行った。	食品安全委員会事務局より放射性物質の基礎知識及び食品健康影響評価について、群馬県より県の放射性物質に対する取組について情報提供した。続いてアドバイザー3人の食品安全への取組を紹介して、放射性物質のリスクの考え方についてアドバイザー間で意見交換を行った後、会場との意見交換を実施した。
参加者から寄せられた質問・意見の例	・通常の食品に含まれるカリウム等の放射性物質とセシウムでは危険度は違うのか。 ・放射性物質の基準値は、震災の前から基準があって震災によって暫定基準値という甘い基準が設定されたのか、元々基準は無かったのか。 ・放射線防護の観点から食品を食べる際に気をつけることは何か。 ・年齢による影響の差はあるのか。	・生物学的半減期について説明があったが、日々食べ続ければ蓄積していくのではないのか。 ・チェルノブイリやスリーマイル島、核実験等のデータは、評価に活用されていないのか。 ・暫定規制値は、小さな子どもに対しても安全な値と言えるのか。 ・県は他県で生産されて県内に流通している食品の安全性についてはどのように対応しているのか。	・食品を洗ったり加熱するなどして、放射性物質を除く方法があるか。 ・放射線防護で色々な薬品が研究されているようだが、体の中に入った放射性物質を解毒する薬はないのか。 ・魚は食物連鎖で重水銀等が濃縮するイメージがあるが、放射性物質の場合どうなるか。 ・食品中の放射性物質に関する山口県の検査状況はどのようになっているか。	・食品中の放射性物質のリスクをどう捉えたらよいか、特に子供への影響についてはどうか。 ・食品の放射性物質を減らす努力はされているのか。特に腐葉土などの肥料はどうなのか。 ・パンダジェフスキー氏の20bq/kg(体重)で、循環器系に異常が見られるというデータについては、どう考えているのか。 ・放射性物質に関する情報提供のあり方についてどのように考えているのか。
参加者	22名(消費者10名、食品関連事業者5名、行政3名、消費者団体1名、食品関連研究者1名、不明・その他2名)	130名(行政40名、消費者団体25名、食品関連事業者14名、消費者6名、生産者3名、食品関連研究者3名、マスコミ1名、不明・その他38名)	33名(消費者団体20名、消費者8名、食品関連事業者5名)	102名(消費者23名、食品関連事業者22名、行政18名、食品関連研究者5名、消費者団体3名、生産者3名、不明・その他28名)

地域の消費者団体等と連携した意見交換会参加者に対するアンケート結果

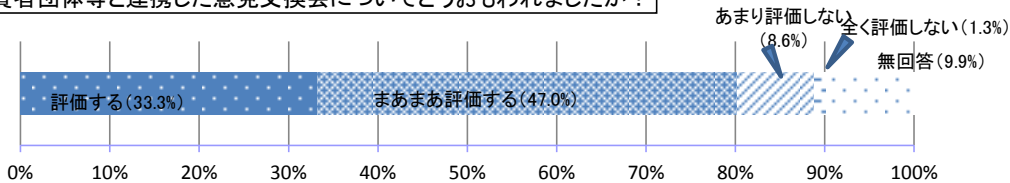
Q消費者団体等と連携した意見交換会に参加した目的



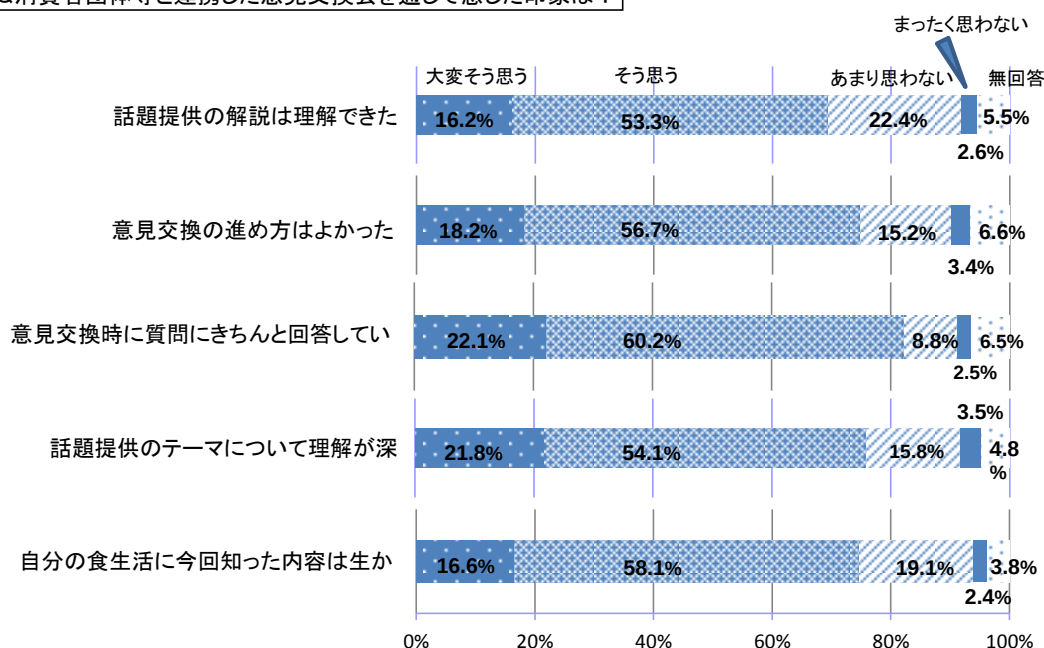
Q消費者団体等と連携した意見交換会は満足できるものでしたか？



Q消費者団体等と連携した意見交換会についてどうおもわれましたか？



Q消費者団体等と連携した意見交換会を通じて感じた印象は？



ジュニア食品安全ゼミナール (地方公共団体との共催) の実施概要

- 開催目的 ①子供たちが食品の安全性について興味を持ち、楽しみながら、知識や理解を深め、冷静に判断する目を育む
②食品の安全性を守るためには何が必要なのか、その中で、食品安全委員会はどのような役割を果たしているかを広報する

■開催日時・場所 ※表は開催日順

開催都道府県	開催日時	協力校	参加人数
愛媛県	10月25日(火) 13:40～15:00	松前町立松前中学校	1年生111名 +保護者
富山県	11月15日(火) 13:40～14:30	富山市立和合中学校	1年生114名
秋田県	11月18日(金) 14:00～15:00	鹿角市立十和田中学校	1年生99名
鹿児島県	11月29日(火) 10:50～11:40	鹿児島市立河頭中学校	2年生63名 +県内家庭科教諭、 保護者等
福岡県	11月30日(水) 11:40～12:30	福岡県立輝翔館中等 教育学校	1年生111名
高知県	12月13日(火) 13:35～14:35	高知市立潮江中学校	2年生130名
沖縄県	平成24年2月3日(金) 14:15～15:05	南城市立佐敷中学校	1年生140名

- 展開方法
- 事前に参加者生徒全員にアンケート実施(質問や疑問点の把握)
 - 事前に参加者生徒全員に副読本「科学の目で見る食品安全」を配布
 - 委員と意見交換をしてもらう生徒代表(10名程度)選出を協力校に依頼
 - 開催日当日、副読本に関連したクイズを参加者全員に実施
 - 開催日当日、委員と生徒代表者らとの意見交換や質疑応答を実施
 - 参加者生徒全員に事後アンケート協力依頼(参加後の意識変化等の把握)

※参加される生徒の人数、学年、会場設備や開催時間などを考慮し、協力校との事前相談の上、具体的な展開を決定しています。

■開催の様子(平成23年10月25日実施 愛媛県)



多目的室で開催



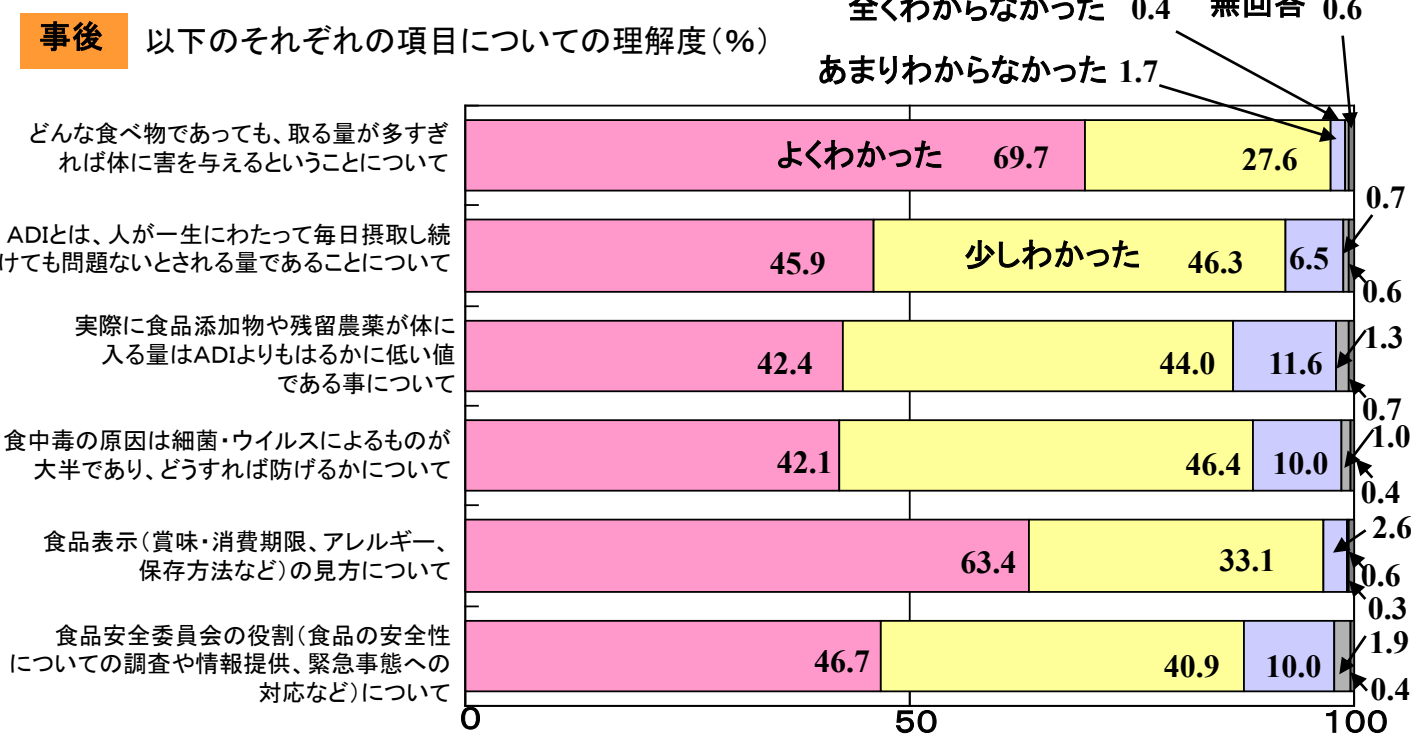
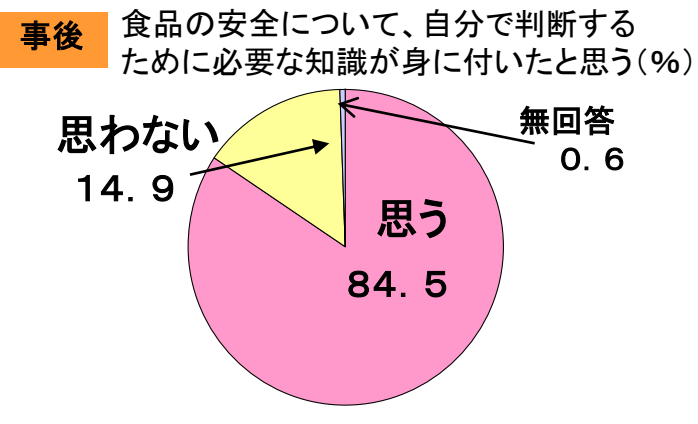
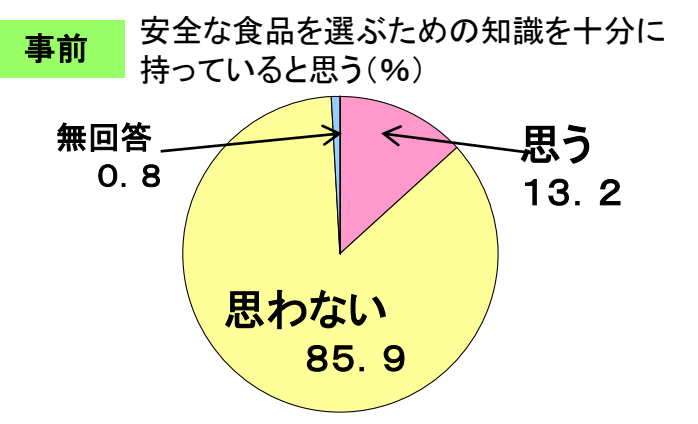
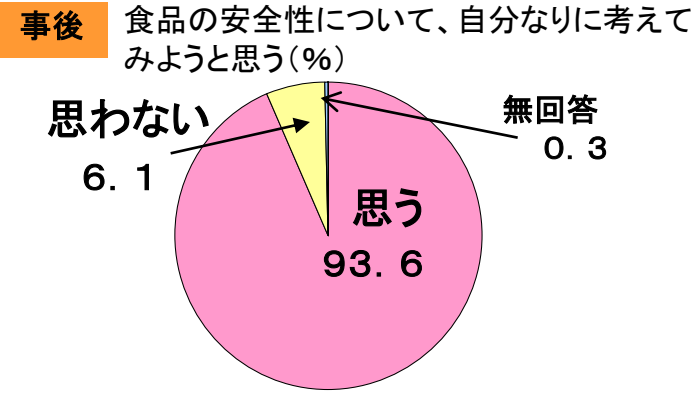
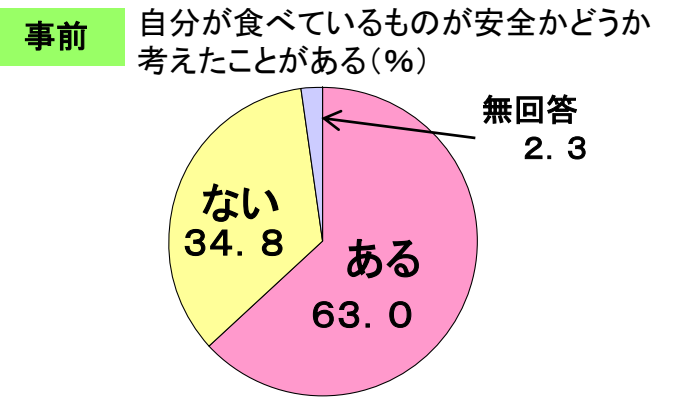
グループで回答(食品安全に関連した言葉)を作り上げる



委員に質問をする生徒

参加生徒に対する事前・事後アンケート結果(7中学校合計)

事前	副読本を読む前に回答 アンケート回収数: 710名	事後	ゼミナール受講後に回答 アンケート回収数: 689名
----	------------------------------	----	-------------------------------



地方公共団体等が実施する意見交換会等への講師派遣

地方公共団体等が実施する意見交換会等に、依頼に応じて、食品安全委員会委員又は事務局職員を派遣し、リスク分析の考え方や食品安全委員会の役割と活動等に関する講演等を実施。

○平成 23 年度の実績 124 件

(委員対応 16 件、事務局職員対応 108 件)

<依頼者の内訳>

・ 地方公共団体	51 件
・ 他省庁、独立行政法人	12 件
・ 大学、研究機関	17 件
・ 公益法人、生活協同組合等	44 件

○食品安全委員会委員による講演等

月 日	講演会名	対応委員
5 月 18 日	東京都学校給食研究会 平成 23 年度特別講演	畑江委員
5 月 24 日	食品保健科学情報交流協議会 平成 23 年度会員研修シンポジウム	熊谷委員長代理
7 月 1 日	東京大学 リスクマネジメント研修	熊谷委員長代理
7 月 3 日	J A 魚沼みなみ 食の学習会	畑江委員
7 月 15 日	鹿児島県 食の安心・安全シンポジウム	野村委員
7 月 26 日	山形県 食の安全フォーラム	畑江委員
8 月 11 日	北海道教育大学 教員免許状更新講習	畑江委員
9 月 22 日	(社) 全国はっ酵乳乳酸菌飲料協会 平成 23 年度第 1 回食品衛生セミナー	熊谷委員長代理
10 月 7 日	富山県 食肉の安全性確保に関する県民フォーラム	熊谷委員長代理
10 月 8 日	大阪市立大学 「食品の安全を考える」シンポジウム	小泉委員長
10 月 15 日	熊本大学 教員免許状更新講習	畑江委員
11 月 17 日	厚生労働省 平成 23 年度食品安全行政講習会	熊谷委員長代理
11 月 26 日	第 9 回日本栄養改善学会北海道支部学術総会	畑江委員
11 月 28 日	日本薬学会 第 9 回食品安全フォーラム	廣瀬委員
1 月 11 日	山口県 平成 23 年度食品・乳肉衛生関係業務研修会	熊谷委員長代理
3 月 2 日	秋田県 食品安全セミナー	畑江委員

ホームページによる情報提供

食品安全委員会ホームページでは、委員会や意見交換会等の資料や概要、食中毒等特定のトピックに関する科学的知見等を随時掲載している。特に国民の関心が高いと考えられる事案については「重要なお知らせ」として速やかに情報提供を行っている。

○「重要なお知らせ」に掲載した事項

- ・委員長からのメッセージ（緊急とりまとめを終えて）（4月8日）
- ・腸管出血性大腸菌による食中毒に関する情報（5月6日）
- ・委員長からのメッセージ（食品に含まれる放射性物質の食品健康影響評価について）（7月26日）
- ・生食用食肉（牛肉）の食品健康影響評価について（8月25日）
- ・食品に含まれるトランス脂肪酸の食品健康影響評価の状況について（10月20日）
- ・委員長談話（食品に含まれる放射性物質の食品健康影響評価について）（10月27日）
- ・放射性物質の食品健康影響評価について（10月27日）
- ・食品に含まれるトランス脂肪酸の食品健康影響評価の状況について（3月8日）

○トップページへのアクセス件数（平成23年度）

月平均アクセス件数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
69,224	96,826	75,708	70,838	81,403	78,644	67,089	60,211	53,899	65,625	66,050	62,229	52,167

（参考）過去の月平均アクセス件数

15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
23,585	35,933	44,793	43,217	44,485	47,895	47,641	57,902

○アクセスの多いページ（トップページ、検索ページ等を除く。）

- ①東北太平洋沖地震の原子力発電所への影響と食品の安全性について
- ②食中毒予防のポイント
- ③放射性物質の食品健康影響評価に関する審議結果（案）についての御意見・情報の募集について
- ④放射性物質を含む食品による健康影響に関するQ & A
- ⑤放射性物質の食品健康影響評価について
- ⑥腸管出血性大腸菌の食中毒に関する情報
- ⑦放射性物質に関する緊急とりまとめ
- ⑧大豆及び大豆イソフラボンに関するQ & A
- ⑨食品に関するリスクコミュニケーション～食品中の放射性物質対策に関する説明会～の開催について
- ⑩専門調査会情報「ワーキンググループ」

メールマガジンによる情報提供

食品安全委員会の活動や委員会からのお知らせをタイムリーにお届けするために「食品安全 e マガジン」を配信。原則として毎週金曜日に配信するほか、重要なお知らせがあるときには臨時号を配信。

○平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月の配信数 51 件

○メールマガジン会員数 11,042 名（平成 24 年 3 月末日現在）

（内訳）

・男女別

男性 7,458 名

女性 3,584 名

・年齢構成

20 歳未満 40 名

20 歳代 1,122 名

30 歳代 2,808 名

40 歳代 3,274 名

50 歳代 2,663 名

60 歳代 998 名

70 歳以上 137 名

・職業別

消費者団体・生活協同組合 421 名

主婦、学生、無職 912 名

生産者（農水産従事者等） 148 名

食品関係事業者・団体（加工、流通、販売等） 4,320 名

マスコミ（新聞記者、カメラマン等） 204 名

行政（自治体職員、独立行政法人職員等） 1,715 名

食品関連研究・教育機関（教員、研究職員等） 981 名

その他 2,341 名

食の安全ダイヤルの取組

「食の安全ダイヤル」で一般消費者等からの相談や問合せを受け付け、多く寄せられる質問等については、Q & Aを作成してホームページに掲載している。

○問い合わせ件数 2,000 件（平成 23 年度）

（内訳）

- ・ 委員会の運営に関する事 233 件
（委員会や専門調査会の会合、ホームページ、メルマガ等について）
- ・ リスク評価に関する事 344 件
（評価の方法、評価やファクトシートの内容等について）
- ・ リスク管理に関する事 1,364 件
（食品表示、衛生管理、規格基準等について）
- ・ その他 59 件

○「よくある質問等」としてホームページに掲載した事項

- ・ 食品中の放射性物質について（Q & A集を掲載）
- ・ 腸管出血性大腸菌による食中毒について、食品安全委員会ではどのような取組をしていますか。
- ・ 生食用の牛肉の規格基準に関するリスク評価を行ったそうですが、概要を教えてください。
- ・ 放射性物質の食品健康影響評価の概要を教えてください。
- ・ トランス脂肪酸の食品健康影響評価が行われたと聞きました。概要を教えてください。

リスクコミュニケーター育成講座受講者との 専用連絡メールボックスの運営

食品安全委員会では、平成21年度までに実施してきたリスクコミュニケーター育成講座の受講者に対するリスクコミュニケーション活動の支援を目的として、専用連絡窓口としてのメールボックスを平成22年7月より開設している。

メールボックスは、メールアドレスを登録した育成講座受講者が専用のメールアドレスを使用して、食品安全委員会事務局のリスクコミュニケーション担当者と情報交流するもの。事務局では、定期的な情報提供に加えて、メールボックスに寄せられた受講者の要望に応じた支援と情報提供を行っている。

■メールボックスの利用状況

リスクコミュニケーター育成講座受講者時に名簿の使用を承諾された受講者1043名のうち、377名がメールアドレスを登録している。(24年3月現在)
この内訳は、行政職員50%、事業者33%、消費者10%、その他7%。

■食品安全委員会事務局からの情報提供例

月に1回程度の割合で次のような情報を提供

- ・ビジュアル版食品の安全性に関する用語集(改訂版)の紹介
- ・サイエンスカフェの動画配信の紹介
- ・委員会主催による意見交換会の概要
- ・食品健康影響評価結果の(生食用食肉(牛肉)、放射性物質)の概要

■受講者からの相談および情報提供

○リスクコミュニケーションに関する相談例

- ・ビジュアル版食品の安全性に関する用語集の利用方法
- ・リスクコミュニケーションツールの貸し出し
- ・食品安全に関するリスクコミュニケーションのテーマ設定
- ・海外における食肉の生食の状況
- ・牡蠣による食中毒発生の予防方法

○リスクコミュニケーションに関する情報提供例

- ・リスクコミュニケーターが開催する意見交換会等の開催予定や結果報告